

事例 7

< 事例概要 >

- ・ 60 歳代の患者、PS <sup>※</sup>3。死亡時画像診断 (Ai) 無、解剖有。
- ・ 主診療科、肝生検施行診療科：消化器内科。
- ・ 抗血小板薬内服中。肝生検 2 日前から休薬した。
- ・ 血小板2.6 万/ $\mu$ L、PT 時間 11 秒、PT 活性116%、FDP 15.9  $\mu$ g/mL。
- ・ 肝機能障害の診断目的で、腹部超音波ガイド下で肝生検が実施された。
- ・ 肝生検終了後から安静が保てず、2 時間半後に腹痛を訴えた。鎮痛薬を内服したが改善しないため、4 時間後に鎮痛薬が点滴投与された。4 時間半後、意識レベル低下、徐脈、 血圧低下し、直後に心肺停止となった。腹部超音波で腹腔内出血があり、約 17 時間後に死亡した。
- ・ 生検組織診断の結果は、びまん性大細胞型B 細胞リンパ腫であった。

※ PS (performance status) : ECOG (Eastern Cooperative Oncology Group) が定めた全身状態の指標で、患者の日常生活の制限の程度を示す